

精神科・心療内科

【特 色】

本来は内科系心身症を中心とする「ストレス関連疾患」が主な診療対象となりますが、当院ではその位置づけにより、外来では摂食障害、抑うつ障害、不安障害、適応障害、身体症状等が、入院では摂食障害、抑うつ障害、適応障害などの症例が大半を占めます。また他科からのコンサルテーションも積極的に受け入れ、入院患者の心理社会的介入も行っています。

身体症状に対しては身体と心の両面からアセスメントし、薬物療法に加えて、患者本人が持っている回復する力（レジリエンス）を活かすアプローチを行っています。

労災病院全体として勤労者医療に重点を置けていますが、当科としても産業医と連携した診療活動に加え、勤労者メンタルヘルスセンターを全面的にバックアップしています。

【研修目標】

1 一般目標 GIOs

- (1) 心療内科領域の疾患が生ずる心身相関のプロセスを理解し、その診断と治療を修得する。
- (2) 心理士、看護師、薬剤師とのチーム医療を修得する。
- (3) ストレス理論を学習し、ストレス対策（早期対応、予防）活動を修得する。
- (4) 精神的危機状態について学習し、危機介入について修得する。

2 行動目標 SBOs

- (1) 患者の心理面に配慮した面接を行い、良好な医師患者関係を築くことができる。
- (2) 心療内科領域の疾患について心身相関に留意した病歴聴取、診察、説明を行うことができる。
- (3) 患者の疾患の心理的背景、行動特性について理解し、行動的介入を行うことができる。
- (4) ストレス理論、心療内科的治療法、チーム医療などについて理解し、実践できる。
- (5) 各種心理テストを施行し、評価することができる。
- (6) 心療内科で使用される薬剤について理解し、薬物療法を行うことができる。
- (7) 心療内科患者への救急対応ができる。

	行動目標	方法	場所	担当者
①	1, 2, 5	講義、ディスカッション	9 F 情報センター	柴山・古川
②	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7	実地診療	外来診察室、病室	柴山・古川
③	1, 6	見学	外来診察室	柴山・山本・古川
④	2, 6	カンファレンス	9 F 情報センター	柴山・古川
⑤	4, 5	自習	図書館、医局	柴山・古川

3 研修方略 LS

- (1) 病棟にて患者を受け持ち、病歴聴取、診察を行う（摂食障害、抑うつ障害を含む研修を行う）。
- (2) 心療内科カンファランスに参加し、症例呈示を行い、積極的にディスカッションに参加する。
- (3) カンファランスで決められた治療方針に従い、指導医のもとで治療的介入を行う。
（心身医学的面接、薬物療法、行動療法を含む研修を行う）
- (4) 受け持った症例を、内科カンファランスや研究会、学会にて発表する。
- (5) 心理テストを施行し、採点、評価を行う。（SDS、STAI、TEG、POMS、バウムテスト、SCT、ロールシャッハテストなどの研修を行う）
- (6) 外来の見学ないし陪診を行い、外来臨床を体験する。
- (7) 勤労者メンタルヘルスセンター業務（リラクセーション、講演など）に参加する。
- (8) 心療内科の救急対応を体験する（過換気発作、パニック発作、向精神薬による急性薬物中毒への対応を含む研修を行う）。

4 研修週間スケジュール

火曜	13時30分	～15時	心療内科との合同入院カンファランス
	16時	～16時30分	心療内科との合同回診
水曜	14時	～15時30分	心療内科との合同外来カンファランス
金曜	13時30分	～15時30分	リエゾンチームとの合同カンファ・回診
月～金	午前中	新患患者の病歴聴取（予診）、救急患者対応（適宜）	
その他、月に1～2度、近隣地域で催されている心身医学、精神科関連の研究会に、参加する。			

5 研修指導者

心療内科	部長	柴山 修
精神科	部長	古川 良子
勤労者メンタルヘルスセンター長		山本 晴義

6 指導体制

研修指導者（臨床経験7年以上）が指導にあたる。

7 評価方法 EV

研修目標の達成状況を、研修終了時に評価表により行う。